

特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 (2021.8—2023.7)

2022 年度第 1 回理事会 議事録



1. 日時

2022 年 10 月 23 日(日) 16:00～19:20

2. 場所

国際文献社会議室および web 会議(zoom 使用)

3. 出席者

理事総数:20 名、出席予定理事:20 名、

理事長:山岸敬幸

副理事長:坂本喜三郎

出席理事:鮎沢衛、赤木禎治、岩本眞理、大内秀雄、小野博、笠原真悟、城戸佐知子、鈴木孝明、須田憲治、瀧間浄宏、豊野学朋、中野俊秀、檜垣高史、深澤隆治、三浦大、三谷義英、山岸正明

土井庄三郎(途中一部参加)

出席監事:市田露子、河田政明、富田英

出席幹事:落合由恵、早濑康信、水野芳子

欠席幹事:武田充人

4. 議長

理事長 山岸敬幸

5. 議事の経過の要領及びその結果

定刻となり定款第 26 条 3 項により山岸敬幸理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より本理事会は定款第 27 条 2 項の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨の報告があった。議長より、本理事会の議事録署名人として豊野学朋理事、中野俊秀理事が選任された。

6. 前回議事録の確認(2021 年度第 5 回理事会)

2021 年度第 5 回理事会議事録の確認が行われた。

7. 審議事項

第 1 号議案:学術集会における標本展示費用を学会負担とすることについて(豊野理事)

提案内容: 従来、学術集会(会長)負担となっているが、ほぼ毎年の学術集会で行われていることから、会長負担の軽減のためにも学会負担とすることが提案された。

議決結果: 全員一致で承認された。学術委員会(形態登録小委員会)が担当として予算申請する。

第2号議案: 2023年 教育セミナー Basic course のコーディネーターの決定(豊野理事)

提案内容: 各論 IX 心血管系の遺伝性疾患と症候群は北海道大学 武田充人先生、各論 VIII 心内膜、心筋、心膜、心臓腫瘍は富山大学 廣野恵一先生が担当する。内容に重複がないようにお互いに調整していること、外科系の内容、講師も検討していることと報告があった。

議決結果: 賛成多数で承認された。

第3号議案: 2024年 教育セミナー Advance course 世話人の決定(豊野理事)

提案内容: 2024年 教育セミナー Advance course は世話人として、大阪急性期・総合医療センター 小垣滋豊先生に内諾を頂き、そのテーマは肺循環で検討中であることが報告された。開催日は他学会の開催、会場との兼ね合いで検討中であるとのことが説明された。

議決結果: 全員一致で承認された。

第4号議案: 外科系教育セミナー経費(講師謝礼等)、専門医単位付について(中野理事)

提案内容: 外科系教育セミナー講師に対する謝礼の支払いを考えている。金額としては、内科系教育セミナー basic に準拠して、一人 3000 円としたい。年 3 回のセミナーに対して、27000 円を予算化して欲しい。また、外科系教育セミナー参加者に対する小児循環器学会専門医更新における単位付与として、1 セミナー参加に対して 2 単位を認めることが適当であると考えている。年 3 回すべて参加してもらおうと、6 単位になる。

議決結果: 賛成多数で承認された。Web形式でログをとって参加確認するシステムには、経費(一例として見積もり 60 万円程度)がかかる。専門医の更新単位を付与し、参加費を設定し、学会からの予算を合わせて運営する。学術委員会(外科系教育委員会)が担当として予算申請する。

第5号議案: 学術集会における学会主導セッションの非会員の謝礼について(早瀬委員長)

提案内容: シンポジウムの指定演者・座長をして頂く非会員の先生方への謝礼(交通費、宿泊費以外の謝礼: 交通費・宿泊費に関しては既に実費支払いと決まっている)に関しては定まった決まりはない。また、学会主導のシンポジウム 1 セッションについての非学会員演者の人数の制限も設けられていない。基本的に、シンポジウム 1 セッションについて非学会員は 1 名以内、多領域は 2-3 人以内(全演者の 50%以下)としたい。また、非学会員の演者の先生には謝礼は 3 万円、多領域では 3 千円を謝礼とすることを決定して頂きたい。さらに、今後の学術集会における学会主導セッションにおける非学会員への謝礼の定型化として、50 万円ほどを予算として認めて頂きたい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第6号議案: 「多領域ミニカンファレンス」の会員限定オンデマンド配信について(山岸正明理事)

提案内容: 前回の理事会で審議事項として提出し、承認が得られていた。今回はその実現に向けて、配信に必要な手続き、配信期間、費用、費用支出部門、その他必要事項など具体的な方法について検討をお願いしたい。全体の費用については未定である。

議決結果: 予算を明確にして 後日、持ち回り審議とすることとなった。また、各エリア・委員会のコンテンツについて、学会として共通のプラットフォームでオンデマンド配信するシステムについて、未来予想図委員会(総務・広報委

員会)で検討することとなった。

第7号議案:定款施行細則第9条1-(5)評議員資格の変更について(山岸正明理事)

提案内容: 前回の理事会で審議事項として提出して承認が得られた事項であるので、来年の評議員推薦に向けて、ホームページでの公開内容の変更等をお願いしたい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第8号議案:専門医制度施行細則及び付則の改訂(鮎沢理事)

提案内容: 専門医制度施行細則及び付則の改訂を認めて頂きたい。

また、専門医修練期間の申請にあたり修練施設での非常勤勤務でも、勤務期間に調整を加えた上で、修練期間に算定できることとする(専門医認定施行細則、付則、申請様式の改訂)ことを承認頂きたい。

議決結果: 全員一致で承認された。

第9号議案:各種委員会や部会の annual report・ガイドラインの JPCCS 掲載について(大内理事)

提案内容: 各種委員会や部会の annual report やガイドラインを英文学術雑誌(Journal of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery:JPCCS)に掲載するため、学術誌編集委員会が各委員会、部会と交渉することを承認頂きたい。

議決結果: 全員一致で承認された。分科会・関連学会も交渉の対象とする。編集委員会で理事長名の依頼状を準備して交渉を円滑にする。

第10号議案:評議員の資格申請・更新に JPCCS への論文投稿を条件とすること(大内理事)

提案内容: 評議員の資格申請と更新(2年毎)に際しての条件として JPCCS に論文掲載(共著でも可)を定款に加えることを検討頂きたい。

議決結果: 方向性は賛成多数で承認された。具体的には、1)論文掲載はハードルが高いので論文投稿(共著でも可)とする、2)定款ではなく、細則とする、3)症例報告は IF 獲得に有効でないが可とする、4)症例報告は JPCCS から別の雑誌に移すのは、時期尚早なので編集委員会で継続議論とする。

第11号議案:「専門医試験問題とその解説」のシリーズ化について(大内理事)

提案内容: 和文の特集新企画として「専門医試験問題とその解説」をシリーズ化することとしたい。そのために、専門医エリアから過去問などを提供して欲しい。

議決結果: 保留・再度検討となった。専門医エリア(鮎沢理事)から、現在、プールされている試験問題の数が少ないので提供するのを控えたいと回答された。専門医委員会から過去問題を提供することは困難であり、編集委員会で予想問題を作るのはどうかなどの意見が出た。

第12号議案:薬事委員会のオブザーバーの追加について(三浦理事)

提案内容: 中川雅生先生の薬事委員会オブザーバーの御就任について

議決結果: 賛成多数で承認された。

第13号議案:THT 協議会の一般社団法人法人化について(山岸敬幸理事長)

提案内容: 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 (THT 協議会) の一般社団法人化について説明があった。

議決結果: 賛成多数で承認された。

第 14 号議案: 「先天性心疾患の手術を行う施設の集約化 (地域拠点化) に関する提言」について

(山岸敬幸理事長、山岸正明理事)

提案内容: 「先天性心疾患の手術を行う施設の集約化 (地域拠点化) に関する提言」の内容を承認いただきたい。

議決結果: 議決は保留。懸念点として、年間手術症例数が 50 例未満の施設、もしくは 150 例未満の施設などが問題であるかのような記載として受け取られることがあるかもしれない。特にマスコミや一般の方にそのように受け取られる危険性もある。また、医療裁判などの事例に使用されると、症例数が少ない施設は問題があるように受け取られる危険性もある。将来的な理想としての提言としては良いが、社会に公表した際に、数字が一人歩きして正しく受け取られない可能性もある。現在進行中の学会での調査結果を待つこと、学会のリーガルアドバイザーの意見を聞くこと、それらをふまえて、次世代育成委員会で再度議論して理事会に諮ることとなった。

本議案については多くの議論があったので、その内容を以下に別添としてまとめる。

提議内容と補足説明

- 小児循環器医療に関わる次世代育成、日本が誇る手術成績の維持、働き方改革への準拠 (労働環境の改善) のために、この提言をホームページに公開し、校正段階にある冊子を一般に配布したい。さらにこの提言を社会と行政に訴えていきたく、理事会で承認してもらいたい。
- 本「提言」の方向性については、日本麻酔科学会や日本集中治療学会にも伝えられており、さらにこの「提言」(文書・冊子)をもって、これらの学会を含む関連学会にも協力してもらいたい。日本心臓血管外科学会の横山理事長から、厚労省の働き方推進室に、この「提言」の骨子は伝えられた。次世代につながる土壌を作るためにも、日本小児循環器学会から、この「提言」について行政の複数の窓口働きかけていきたい。循環器連合・日本循環器学会から 5 ヶ年計画 (脳卒中・循環器病対策基本法関連)、日本小児科学会から第 8 次医療計画・小児医療 (成育基本法関連) にも参入したい。行政からの補助金も視野に入れたい。

理事会での懸念点

- “年間手術数 150 例以上を目標”、“今後 5 年を目処に推進されるべき”の記載について: 150 例に満たない日本の施設がほとんどの中で、目標達成実現性の低い“150 例”という数字を提示するのはどうか?“5 年以内”という数字も目標達成実現性が低いと思われる。
- “年間手術数 50 例未満の施設では・・・手術の実施を控えることが望ましい”の記載について: 該当する施設の診療 (および運営・経営) に影響が出る恐れがあり、その施設の手術症例の結果が悪かった際に、“してはいけない施設で心臓手術をした”となり、法的 (訴訟) ないし社会的 (メディア報道等) リスクを抱えることになるのではないかと。数字を含めた提言を出す以上は、学会として責任をとる覚悟が必要。この点については、リーガルの意見も聞く必要がある。

上記に対する説明

- “年間手術数 150 例”という数字は、次世代育成委員会の調査から、1) 次世代育成の対象になる若手の修練を所属する施設で適切に実施するのに必要な数字、2) 働き方改革に沿う人の確保ができる継続性のある数字、という点から出てきた。外科系には非常に切迫感がある。また、成人心臓外科医、一般集中治療医は小児心臓手術の術後管理に対応できず、多くの施設で術後管理を小児心臓外科医が行っており、働き方改革に準ずるためにも小児集中治療医の確保も必要である。また科学的根拠として、芳村先生の JTCVS の論文もある。
- 「提言」は努力目標を示すものであり、集約化ではなく、次世代育成・労働環境・手術成績を地域で維持するために、最適化すること

が目的である。現在学会で実施中の手術数と成績の詳細な調査の結果を見ていると、数が少なくても成績の良い施設は残し、成績の悪いところは regionalization の範疇に入る施設もあり、成績の良いところに集中させていかなくてはならない。

- 日本の大半の大学病院では“年間手術数 150 例”の目標に達しないので、小児心臓外科が潰れてしまう恐れがある。大学の小児心臓外科が潰れると、学生や研修医が小児心臓外科に触れる事なく、小児心臓外科を志望しなくなるという懸念もある。医育機関は残すように考慮すべきである。

現時点では

- 少なくとも、現在進行中の学会調査の解析結果が出るまで、「提言」の公表は控える。調査結果をふまえて、次世代エリアで「数字」を含めて、再度議論する。
- 「提言」の数字には科学的な根拠はあるので、この提言を、どこにどう示していくかは非常に重要である。行政からは数字を求められることが多いが、社会に対して数字を出すことのデメリットも慎重に検討する必要がある。リーガルの意見も参考にする。
- 日本心臓血管外科学会理事会(11月開催・鈴木孝明理事出席)でも、当学会理事会での議論について共有する。

第 15 号議案:「小児・成育循環器学」の改訂について(山岸敬幸理事長)

提案内容: 小児・成育循環器学」の改訂の予定について説明があった。

議決結果: 賛成多数で承認された。

8. 報告事項:

・理事長報告

1. 持ち回り理事会報告

すでに承認済み

2. その他

・小児科学会と European Academy of Paediatrics(EAP)の合同で、アンケート調査を企画されており、松井先生より協力してほしいと依頼があり、協力させて頂く事になった

・会長報告

1. 第 58 回学術集会開催報告(土井庄三郎会長) 土井会長ご欠席のため、ご発言なし

2. 第 59 回学術集会準備状況報告(鈴木孝明会長)

2023/7/6-7/8 にパシフィコ横浜ノースで行う。演題登録は 2022/12/12-2023/1/23 まで現地開催で、現地+一部 VOD?

概要; 現地開催で、リモート登壇なし、一部のセッションを会期終了後オンデマンド配信。

会場プランは第 1-8, ポスターは企業展示場の広いところで。

前日:7/5 に理事会・評議員会・拡大プログラム委員会

1日目:7/6 に会員懇親会

2日目:7/7 に研究会

3日目:7/8 に小児用補助人工心臓研修セミナー・教育セミナー、市民公開講座の予定

コロナ対策は十分に行う。

プログラムに関して、長期企画 12, 短期企画 7 の合計 19 企画. パネルディスカッション 3, シンポジウム 16 で、会長要望でその中の外科系と多領域の分をもっと増やしたい. 11/29 までに座長, 指定演題, 公募の有無などを明確にして頂きたい. 委員会主導のセッションは 10 程度で、12/20 までに応募をお願いしたい. 年始より日程表完成に入りたい. 委員会主導常設セッションに関しては例年どおり.

Joint セッションは 5 セッションの予定. その他、坂本喜三郎先生が会長の第 3 回 AAPCHS との joint session を 7/7 の午後と 7/8 の午前に予定、不整脈心電学会と被るので、JHRS との joint は出来ない、ただし日程調整等を行い不整脈の先生が両方の学会に出られるようにする.

フォンタン coordinator の宗内先生から、小児栄養消化器肝臓学会と“Failed Fontan”について joint session をして欲しいという申し出があり、検討することになった.

会長要望セッションは 8 セッションを予定し現在企画中. テーマが Harmony なので多職種のセッションを多くしたい.

学会主催者側の要望

- 多職種の参加を多くしたいので、医師以外の発表者は学会員でなくとも可能としたい(ただし、共同演者の中に学会員が含まれる事を必須)という提案があり、この件は“もち回り理事会”で話し合うことになった.
- 抄録アプリのパスワードの販売
- AAPCHS とのジョイント開催
- 全員懇親会は 1 日目に対面でやりたい、有料(例年どおり)
- 倫理審査のチェックはこれまでとおり
- 医療安全講習会、倫理講習会は、日本専門医機構の共通講習としての届出は行う方向で

・各エリア委員会報告

● 学術エリア

学術委員会(土井理事)

内科系教育委員会(土井理事・藤井隆成委員長)

データベース小委員会(土井理事・関満委員長)

外科系教育委員会(中野理事・猪飼秋夫委員長)

形態登録小委員会(土井理事・稲井慶委員長)

研究委員会(土井理事・新居正基委員長)

遺伝子疫学小委員会(土井理事・犬塚亮委員長)

ガイドライン委員会(土井理事・横山詩子委員長)

学術集会支援委員会(土井理事・早瀬康信委員長)

ジョイントセッション委員会(土井理事・先崎秀明委員長)

顕彰委員会(土井理事・小垣滋豊委員長)

● 渉外エリア

渉外委員会(三谷理事)

コロナのため、頓挫していた短期留学;AHA, AEPC が 3 年ぶりに再会. AHA が今回開始で、今回 2 人願います. また 11/5 から始まる AHA は WEB もあるので参加を願います.

- 次世代エリア

次世代育成委員会(山岸正明理事)

多領域専門職委員会(山岸正明理事・仁尾かおり委員長)

働き方改革委員会(岩本理事・佐藤誠一委員長)

岩本理事より、医師の働き方改革 2024 の B 水準, C2 水準に関しては、今後整理して伝える。

- 専門医制度エリア

専門医制度・認定委員会(鮎沢理事)

11/6 と 11/13 に専門医試験が実施される予定。日本循環器専門医については、小児科医・外科医に対して優遇措置をとることになり、小児循環器専門医または心臓血管外科専門医が 2023-26 年度の循環器専門医(学会認定)を受験する際には、診療実績表の提出を免除し、3 年以上の修練施設での研修および筆記試験合格で認定する事が決定している。

専門医試験委員会(鮎沢理事・平田陽一郎委員長)

専門医カリキュラム委員会(鮎沢理事・麻生健太郎委員長)

地方会認定委員会(鮎沢理事・藤原優子委員長)

- 学会誌エリア

和文誌編集委員会(大内理事・高橋健委員長)

英文誌編集委員会(大内理事・上村秀樹委員長)

- 社会制度エリア

移植委員会(笠原理事・福寫教偉委員長)

心臓移植・心肺同時移植関連学会協議会(鈴木理事)

心肺同時移植実施施設として、東大病院が決定した。小児心臓移植実施施設認定の募集があり、締め切りは 11/21 になっている。

補助人工心臓治療関連学会協議会(鈴木理事)

小児慢性・難病対策委員会(檜垣理事)

蘇生科学教育委員会(檜垣理事・太田邦雄委員長)

学校心臓検診委員会(檜垣理事・牛ノ濱大也委員長)

移行医療委員会(檜垣理事・落合亮太委員長)

学校と教育の連携委員会(檜垣理事・内田敬子委員長)

内田委員長が第 58 回日本小児循環器学会での市民公開講座のアンケートをまとめている。

- 保険診療/臨床試験エリア

保険診療委員会(小野理事)

令和 6 年の診療報酬改定の課題を募集しているので、小野先生に提出してほしい。鈴木理事より、外保連関連は心臓血管外科学会と胸部外科学会が協力してやっていくことになって進めている。また TPVI に関しては小児循環器学会が主学会となって、外保連試案を作成し、登録する予定である。

臨床試験委員会(三浦理事)

オノアクトの治験が成功して小児の適応が承認された。アミオダロン、ビソプロロールのアンケートを発信しますので、ご協力くださいとのこと。

超軟質実物大 3D 心臓モデル対象疾患選定 WG(山岸正明理事)

医療材料機器委員会(三浦理事・杉山央委員長)

Harmony PVI(HPVI)の site visit が富田先生のご協力の元, 進んでいる.

薬事委員会(三浦理事・坂口平馬委員長)

新しいカテーテル治療のあり方ワーキンググループ(三浦理事)

経カテーテル肺動脈弁留置術管理委員会(三浦理事)

HBD for Children 委員会(山岸理事長)

- 医療安全・倫理エリア

医療安全委員会(鈴木理事)

利益相反委員会(瀧間理事・中島弘道委員長)

倫理委員会(瀧間理事・前田潤委員長)

- 未来予想図委員会(・広報委員会)

未来予想図委員会(山岸敬幸理事長)

HP 更新はスマホ対応にするが, パソコン版は残してスマホ版を別に作成するか, パソコン版も全面的リニューアルするかを検討を含めて見積りを取り, 業者を選定中.

広報委員会(山岸敬幸理事長・松井彦郎委員長)

6. 懇談事項

- 学術集会における海外招請者への対応について(豊野理事)

2022 年の学会に土井会長が招請したかった海外の先生の航空運賃が非常に高いため, 招請を断念した. 海外とのジョイントセッション(AHA, AEPC など)における現地参加者が非常に少なかった. これに関しては学会として対応が必要であろう. 次回学会会長の鈴木先生から, 円安の影響もあり, WEB も考慮しないとイケないが, このところの学会収支はマイナスではないので, できるだけは招請したい.

- 学会 HP リニューアルについて(山岸敬幸理事長) 上記(未来予想図委員会報告)の通り.

7. 閉会:

以上をもって本日の議事を終了とし, 議長から謝辞があり, 閉会した.